



旧久居町のまち並み

久居東鷹跡町の久居ふるさと文学館や久居郵便局が立地する一角には、平成28年に解体されるまで旧久居庁舎が建っていました。かつてこの場所には、郡全体の事務を執り行う郡役所などがありました。

明治11年、郡区町村編成法により、新たに行政区画としての「一志郡」が発足します。明治22年には町村制が施行され、いわゆる明治の大合併により8町136村が1町38村となりました。この時、久居の本町・東鷹跡町・西鷹跡町・二ノ町・旅籠町・幸町・万町・寺町が合併して成立したのが、久居町です。発足当時の久居町の人口は3,248人でした。

当時の一志郡で唯一の「町」であった久居町には、一志郡全体の事務を扱う郡役所や警察署など、さまざまな施設が置かれました。大正初期のまち並みをみると、旧久居庁舎の跡地には、一志郡役所と郡立一志図書館が並び、道を挟んだ現在の久居郵便局周辺には、久居町役場と久居警察署の建物が並んでいました。また、近くの本町筋には、百五銀行・農商銀行・一志銀行の各支店があり、まさに行政や金融の中心地でした。

この発展の背景には、明治41年に陸軍歩兵51連隊が置かれ、約3,000人が駐屯していたことがありました。軍人やその家族、関係者で大いにぎわったと伝えられており、同年、津～久

居間に軽便鉄道も開通しました。大正14年には、ワシントン海軍軍縮条約による軍備再編により第51連隊が解体されますが、代わって名古屋から第33連隊が入営しました。

久居町はその後、昭和6年に本村、同30年に桃園村・戸木村・七栗村・稲葉村・榊原村が新たに合併し、現在の久居地域を範囲とする町となりました。一志郡役所の場所に旧久居庁舎が建設されたのは昭和42年、市制が施行されたのは同45年のことでした。

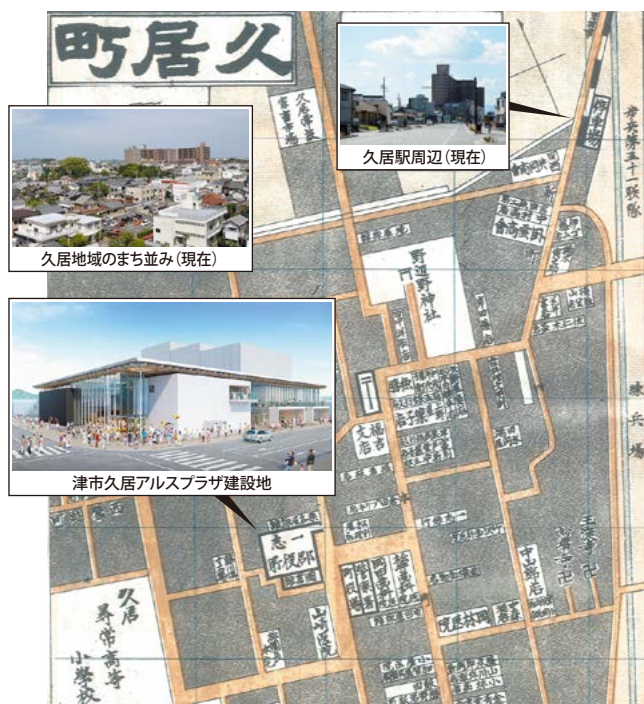
現在、旧久居庁舎の跡地には、来年6月の供用開始を目指して、「津市久居アルスプラザ」の建設工事が進められています。ときの風ホールやアートスペースなどを備えたこの文化芸術拠点の誕生とともに、新たな時代が築かれようとしています。



一志郡役所



郡立一志図書館



大正時代の久居町の地図